

# 郷四郎遺跡Ⅱ

2007年

日田市教育委員会

## 序 文

この報告書は、当教育委員会が店舗建設工事に先立ち、発掘調査を実施した郷四郎遺跡の調査内容をまとめたものです。

郷四郎遺跡は、弥生時代の多様な副葬品を持つ墳墓群が見つかった吹上遺跡を北に望む沖積地に位置しています。

調査では古墳時代の住居や弥生時代から中世にいたる遺物包含層が確認され、沖積地における集落の立地状況の把握や周辺地において集落の存在が想定されるなど、貴重な成果を得ることができました。

こうした発掘調査の成果をまとめた本書が、今後、文化財の保護や学術研究、地域の歴史を学ぶための教材などとして、ご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査にご理解・ご協力いただきましたサンクスジャパン株式会社をはじめとして、土地所有者の方や地元の方、発掘作業に従事いただきました作業員の皆様方に対して、心から厚くお礼申し上げます。

平成19年9月

日田市教育委員会

教育長 合原多賀雄

# 例 言

1. 本書は、日田市教育委員会が平成18年度に実施した郷四郎遺跡2次の発掘調査報告書である。
2. 調査は店舗建設工事に伴い、サンクスジャパン株式会社の委託業務として日田市が受託し、日田市教育委員会が事業主体となり実施した。
3. 調査現場での実測・写真撮影は若杉が行い、杉野貴幸（文化財保護課調査補助員）の協力を得た。
4. 調査中、甲斐寿義氏（現、大分市立城東中学校教諭）より有益なご指導をいただいた。
5. 本書に掲載した遺物実測は若杉が行い、製図は若杉が行った他、中川照美（文化財保護課整理作業員）の協力を得た。
6. 遺物写真撮影は雅企画有限会社に委託し、その成果品を使用した。
7. 本書に使用した図面中の方位は、磁北で表示している。
8. 写真図版に付している番号は挿図番号に対応する。
9. 出土遺物及び図面・写真類は日田市埋蔵文化財センターにて保管している。
10. 本書の執筆・編集は若杉が担当した。

## 本文目次

I 調査に至る経過と組織	1
II 遺跡の立地と環境	2
III 調査の記録	3
IV まとめ	12

## 写真図版目次

写真図版1 調査区遠景・I、II区完掘
写真図版2 竪穴住居、I-1・2区
写真図版3 I-3区、II-1・2区
写真図版4 II-2・3区、遺物写真
写真図版5 遺物写真

## 挿図目次

第1図 調査区位置図(1/5000)	1
第2図 周辺遺跡分布図(1/25000)	2
第3図 調査区配置図(1/500)	3
第4図 I区全体図(1/150)及び土層実測図(1/50)	4
第5図 1号竪穴住居実測図(1/60) 及びカマド実測図(1/30)	5
第6図 1号竪穴住居出土遺物実測図(1/3・1/4)	5
第7図 I-1区遺物出土状況及び土層実測図(1/40)	6
第8図 I-2・3区遺物出土状況 及び土層実測図(1/40)	6
第9図 I区出土遺物実測図(1/3・1/4)	7
第10図 II区全体図(1/150)及び土層実測図(1/50)	8
第11図 II区遺物出土状況及び土層実測図(1/40)	9
第12図 II区出土遺物実測図(1/4・1/3・1/2)	10
第13図 II区出土遺物及びその他の遺物実測図 (1/6・1/4・1/3・1/2・1/1)	11

## 本文写真目次

写真1 調査風景	2
写真2 II区トレンチ遺物出土状況	11



日田市の位置図

## 表 目 次

第1表 出土土器観察表	13
-------------	----

## I 調査に至る経過と組織

平成18年4月27日付けでサンクスジャパン株式会社より、日田市大字十二町字堀336番地での店舗建設に先立つ事前の照会文書が日田市教育委員会に提出された。開発予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地（日田条里遺跡）に該当し、また予定地の北東側では平成6年に郷四郎遺跡として発掘調査が行われ、弥生時代の包含層や古墳時代から中世に至る溝が確認されていることから、その取り扱いについて協議が必要である旨の文書回答を行った。事業者側からの依頼を受け、試掘調査を行った結果、奈良時代の土師器や須恵器が10数点出土し、良好な包含層の存在が明らかとなったことから、発掘調査が必要であるとの回答を行った。

その後、事業者と協議を行い、建物基礎により掘削を受ける部分をトレンチ状に掘り下げ、さらに2m四方の基礎が深く入る部分を深掘りする方法で調査を実施することとし、平成18年度に発掘調査・整理作業、平成19年度に報告書作成・印刷の2ヵ年に分けて契約を行うことで協定書を結び、5月31日に委託契約を取り交わした。発掘調査は6月7日から7月28日まで、整理作業は8月1日から31日、11月1日～11月29日の間実施し、平成18年度の業務を終了した。

翌平成19年度は、4月13日に委託契約を取り交わし、9月30日までの間、報告書作成・印刷を行った。

調査の経過は以下のとおりである。

6月7日 表土剥ぎ・遺構検出開始

6月9日 遺構検出終了・包含層掘り下げ、写真撮影、実測開始

7月10日 竪穴住居を1軒確認

7月14日 清掃後、全体写真撮影

7月26日 器材整理・撤収

7月28日 危険防止のため、調査区の埋め戻しを行い、調査終了  
調査終了後の8月1日に日田警察署長宛に埋蔵文化財発見届を提出し、8月17日に埋蔵文化財の認定を受けた。

なお、調査関係者は以下のとおりである。

平成18年度（2006）／発掘調査・整理作業

平成19年度（2007）／報告書作成・印刷

調査主体 日田市教育委員会

調査責任者 諫山康雄（日田市教育委員会教育長、～平成19年8月17日）

合原多賀雄（同教育長、平成19年9月27日～）

調査統括 後藤清（日田市教育庁文化財保護課長、平成18年度）

梶原孝史（同文化財保護課長、平成19年度）

調査事務 高倉隆人（日田市教育庁文化財保護課課長補佐兼埋蔵文化財係長、平成18年度）

井上正一郎（同文化財保護課課長補佐兼埋蔵文化財係長、平成19年度）

田中正勝（同専門員）伊藤京子（同専門員）、塚原美保（同主査、平成19年度）

中村邦宏（同主事補、平成18年度）

調査担当 若杉竜太（日田市教育庁文化財保護課主任）

調査員 今田秀樹（日田市教育庁文化財保護課主任、平成19年度・主査）

行時桂子（同主任）、渡邊隆行（同主任：試掘担当）、矢羽田幸宏（同主事）

発掘作業員 五反田静子 後藤美知夫 財津利枝 財津由太 筒井英治 原口勝利 平原知義

行村シヅエ

整理作業員 朝倉眞佐子 石松裕美 井上とし子 鍛冶谷節子 佐藤みちこ 平川優子 安元百合

来訪者 甲斐寿義（大分県教育庁埋蔵文化財センター、平成18年度）



第1図 調査区位置図（1/5000）

## II 遺跡の立地と環境

郷四郎遺跡は日田盆地の西部、花月川と庄手川に挟まれた標高75～80mの沖積地上に位置する。遺跡の西約1.5km付近は、花月川・庄手川の他に盆地北西部から流れる二串川が九州最大の河川である筑後川（三隈川）に合流する地点に当たる。

郷四郎遺跡は今回の調査区より北東約150mの地点で過去に1度発掘調査が行われており、弥生時代の包含層と古墳時代から中世にかけての溝が5条確認されている。

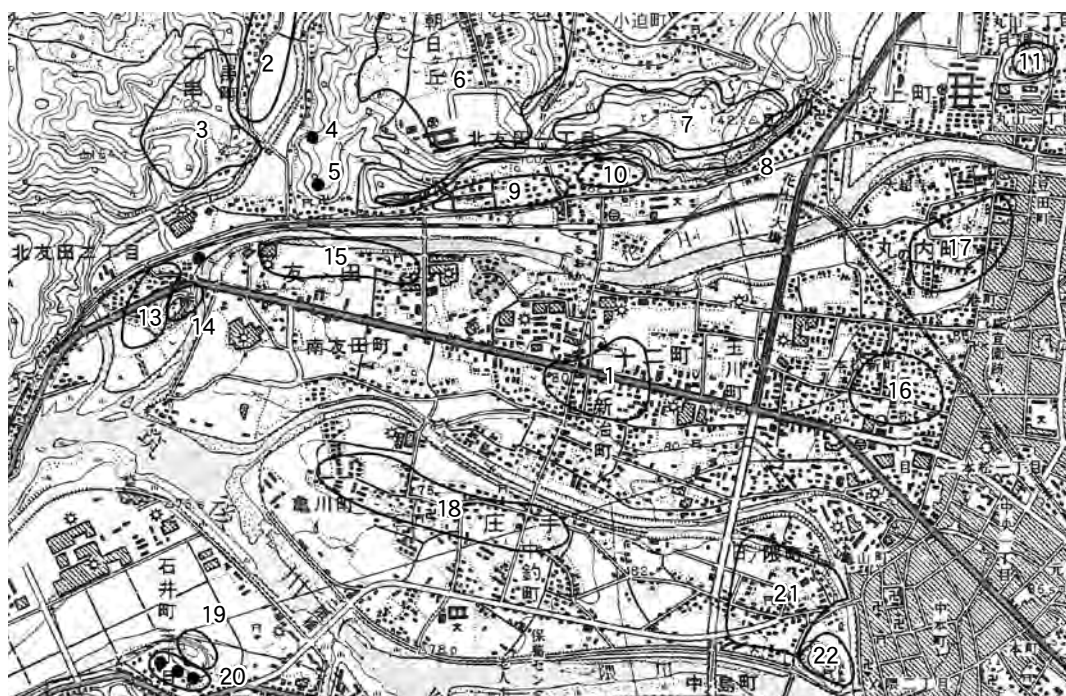
遺跡の北側に広がる吹上原台地には、弥生時代前期～終末期の集落や墓地在確認された吹上遺跡が存在する。特に中期後半の甕棺墓や木棺墓には銅剣や鉄剣、貝輪・玉類が副葬されており、当時の首長墓として注目される。また、谷を挟んだ西側の小迫原台地では縄文時代の可能性のある陥し穴状遺構や早期の土器などが確認された朝日ヶ丘遺跡がある。吹上原台地とその南側を流れる花月川との間の狭い沖積地には弥生時代～古代にかけての集落が確認された今泉遺跡、その背後の崖面には北友田横穴墓群が展開する。また、花月川を挟んで今泉遺跡の対岸には、古墳時代中期の鍛冶工房跡や中世の建物群が見つかった荻鶴遺跡が存在する。さらに、荻鶴遺跡の西側には、横穴式石室を主体とする三郎丸古墳や独立丘陵上に40基を超える横穴墓がみられる星隈横穴墓群がある。

郷四郎遺跡より南側の庄手川を挟んだ沖積地上には、弥生時代後期の環濠集落や中世墓が確認された徳瀬遺跡、東側には縄文時代～古墳時代にかけての包含層が確認された瀧ヶ本遺跡が存在する。また、瀧ヶ本遺跡の北側に位置する一丁田遺跡では弥生時代～古墳時代の集落が確認され、古墳時代の竪穴遺構からは鉄錠が出土している。

以上、郷四郎遺跡周辺の主要な遺跡を概観してきたが、特に近年では市街地が広がる沖積地での調査例が増加していることが特徴として挙げられる。

(主要参考文献)

松下桂子編『郷四郎遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第10集 日田市教育委員会 1996  
 土居和幸編『吹上Ⅰ』日田市埋蔵文化財調査報告書第42集 日田市教育委員会 2003ほか  
 五十川雄也編『朝日ヶ丘遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第18集 日田市教育委員会 2000  
 渡邊隆行編『今泉遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第37集 日田市教育委員会 2002  
 行時志郎編『荻鶴遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第9集 日田市教育委員会 1995  
 吉田博嗣編『徳瀬遺跡3次』日田市埋蔵文化財調査報告書第22集 日田市教育委員会 2000  
 土居和幸編『徳瀬遺跡Ⅱ』日田市埋蔵文化財調査報告書第71集 日田市教育委員会 2006  
 矢羽田幸宏編『瀧ヶ本遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第80集 日田市教育委員会 2007  
 渡邊隆行他編『一丁田遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第68集 日田市教育委員会 2006



- 1 郷四郎遺跡
- 2 山ノ神(二串)遺跡
- 3 友田坂本遺跡
- 4 鳥越(友田)古墳
- 5 片山石棺
- 6 朝日ヶ丘遺跡
- 7 吹上遺跡
- 8 北友田横穴墓群
- 9 今泉遺跡
- 10 岳林寺遺跡
- 11 月隈跡・月隈横穴墓群
- 12 三郎丸古墳
- 13 三郎丸遺跡
- 14 三郎丸砦
- 15 荻鶴遺跡
- 16 瀧ヶ本遺跡
- 17 一丁田遺跡
- 18 徳瀬遺跡
- 19 隈山遺跡
- 20 ガランドヤ古墳群
- 21 村前遺跡
- 22 日隈城跡・日隈古墳

第2図 周辺遺跡分布図 (1/25000)

### III 調査の内容

#### (1) 調査の概要 (第3図)

調査では、まずアスファルトの除去を行い、試掘調査で確認された現地表下約20cmの遺物包含層上面まで掘り下げた。その後、遺構検出を行ったが、遺構は確認されなかったことから、コンクリート基礎で掘削を受ける部分に一辺約2.2mの深掘り区を設定し、土層の確認を行いながら、10cm前後ずつ掘り下げを行った。なお、深掘り区7ヶ所中6ヶ所は、以前の建物基礎による攪乱を受けており、掘り下げ面積は予定より大幅に減少した。なお、深掘り区はI・II区ともに東側から1区・2区・3区としている。

(例：I-1区、II-2区)

また、I区は当初4つの区を設定していたが、4区において竪穴住居が確認され、調査方法を変更したことから、上層の出土状況は全体図のみに記し、個別の出土状況・土層の実測図は載せていない。

調査区の土層堆積状況は、現地表下約20cmの厚さで、以前の建物の基礎となるクラッシャーランや瓦礫が含まれる層が見られた。その下には10～20cmの厚さで水田層、その下層に70～80cmの厚さで砂質の遺物包含層が堆積していた。最下層は粗い砂と拳大の礫から成る層で、基本的にはこの面までの掘り下げを行った。

#### (2) 遺構と遺物

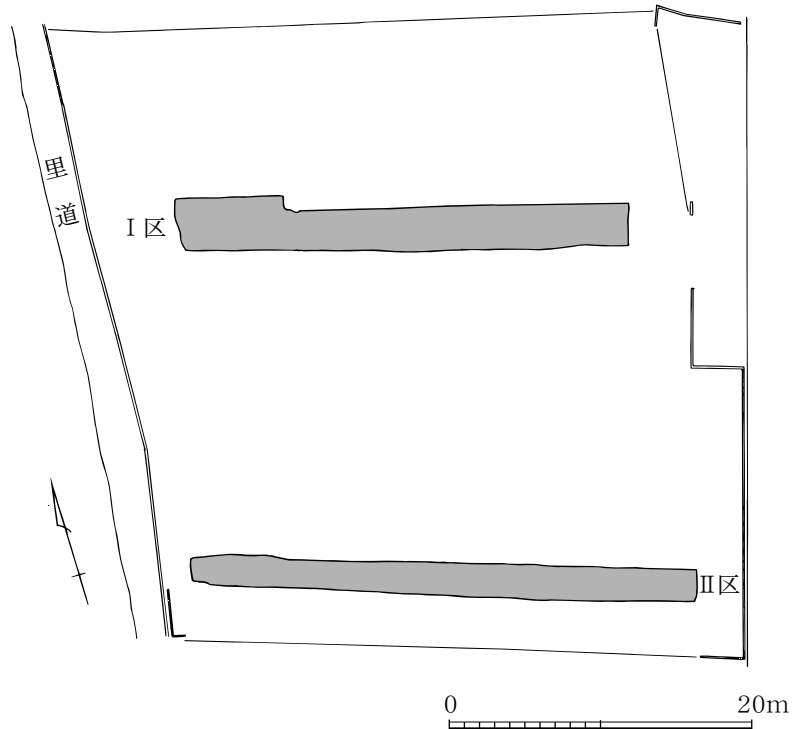
##### 1. I区 (図版1～3)

###### 基本土層 (第4図)

I区の土層は、基本的に2a層、3a層、4層の3枚の包含層からなり、何れも砂質である。その下層には基盤となる砂礫層が見られる。4層は調査区中央付近で西側へ落ち込むが、これに対応するように5・6層が西側から中央付近へ向かって徐々に高まり、東側へ落ち込んでいることから、浅い溝状を呈していたと思われる。また、竪穴住居が確認された検出面は4層上面である。

###### 1号竪穴住居 (第5図 図版2)

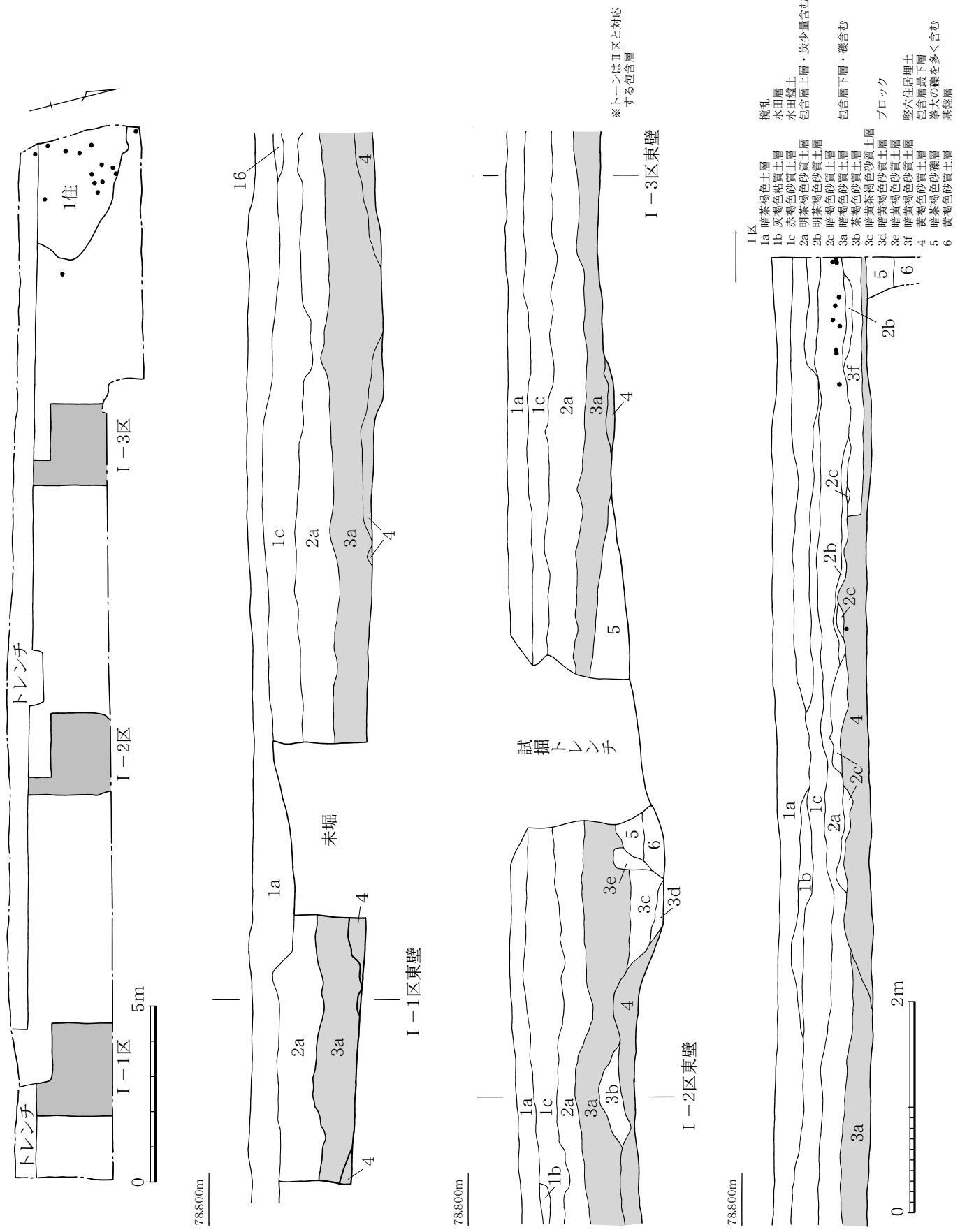
I区西端で確認された。当初、包含層として、掘り下げを行っており、焼土や抜き取られたとみられる支脚が確認されたことで、住居が存在することがわかったため、上面は掘り過ぎたと考えられる。調査区内で確認された住居の規模は約4.1m +  $\alpha$  × 約2.4m +  $\alpha$ で、検出面からの床面までの深さは約10cmである。主柱穴とみられるピットは住居の北東壁より約1m、南東壁より約2mの地点で確認され、床面からの深さは約20cmである。カマドは北西側に付設されていたが、これが北東壁の中央に付設されていたと仮定すれば、



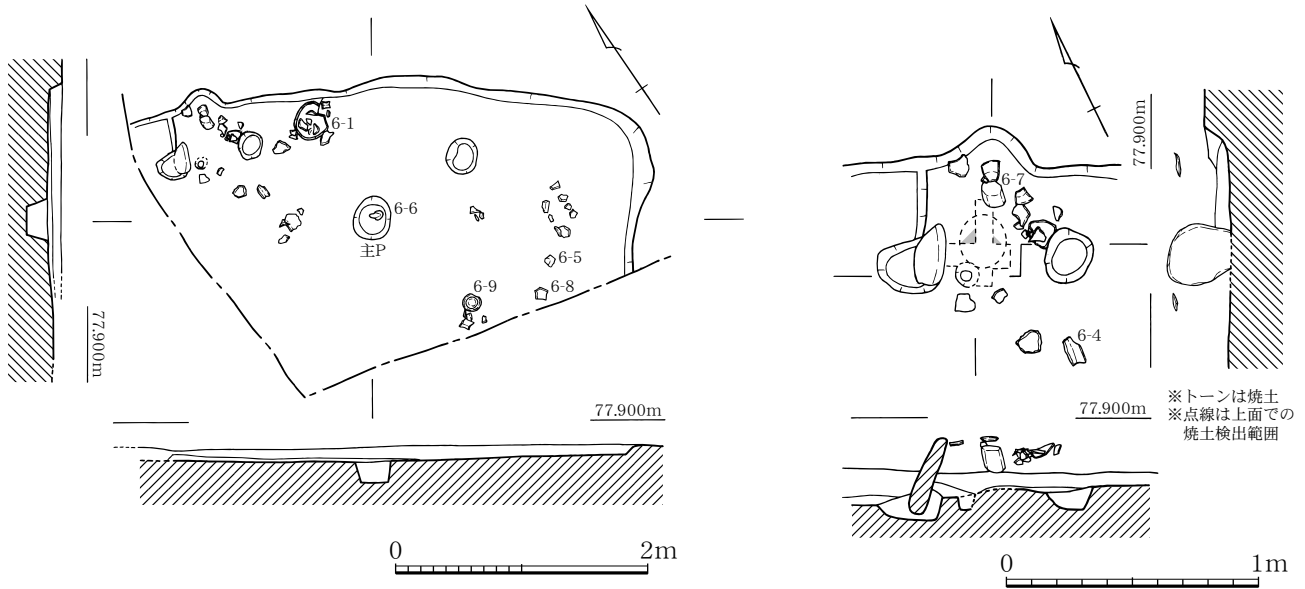
第3図 調査区位置図 (1/500)



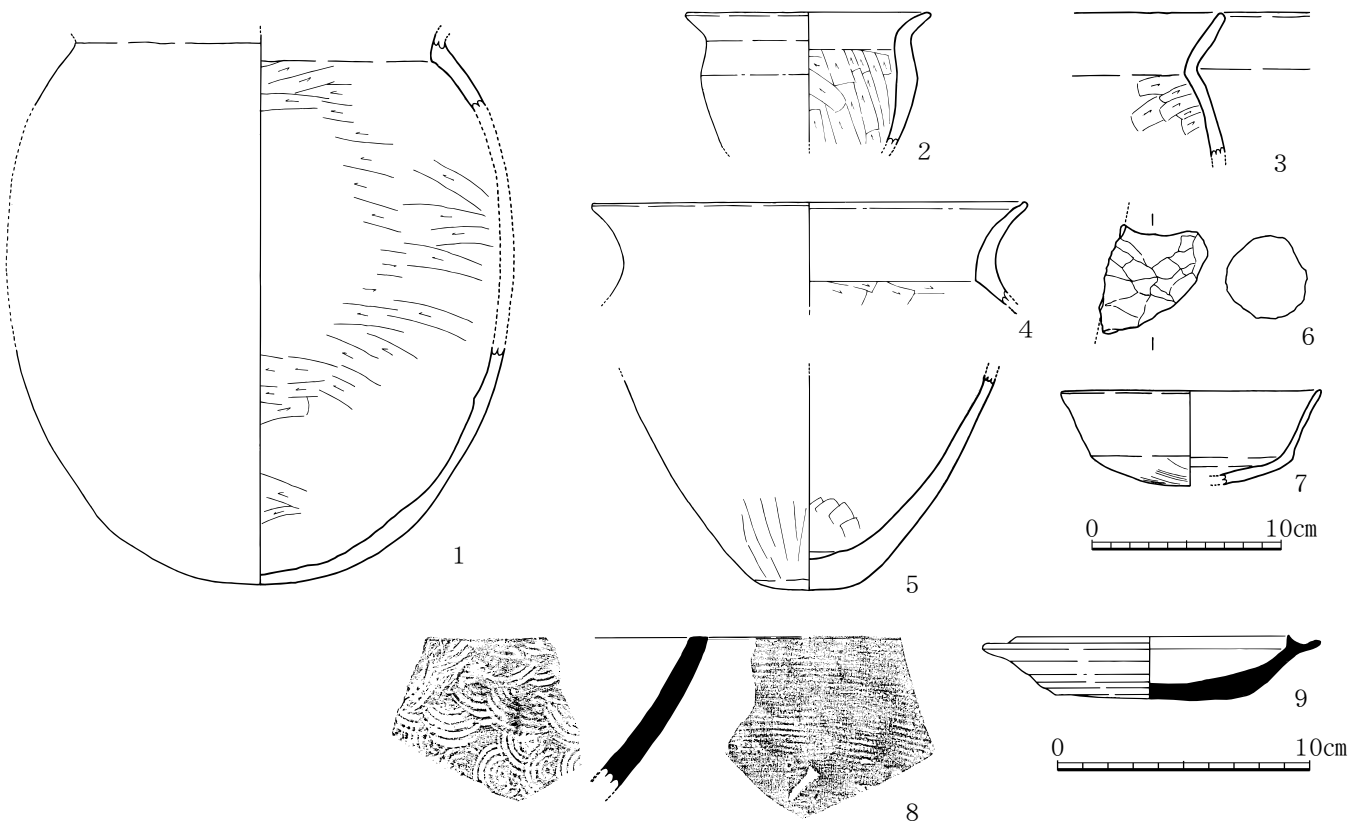
写真1 調査風景



第4図 I区全体図(1/150)及び土層実測図(1/50)



第5図 1号竪穴住居実測図（1/60）及びカマド実測図（1/30）

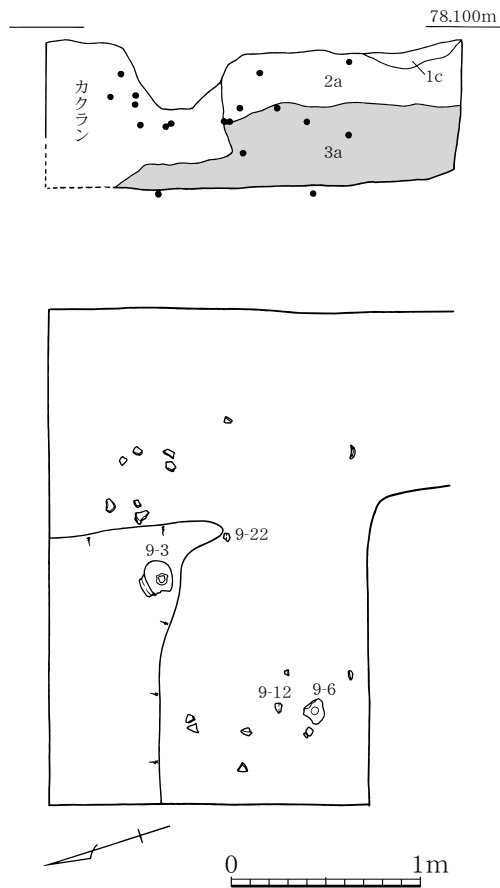


第6図 1号竪穴住居出土遺物実測図（1～8：1/4、9：1/3）

カマドの主軸線上から東壁までは約3.4mとなり、住居の規模は南東—北西方向が約6.8mと推定できる。

カマドは、方形状に外に張り出すタイプである。袖は右側が壊されるとともに袖石は抜かれていたが、左側の袖及び袖石は確認された。また、支脚に利用したとみられる石材が確認できたが、奥壁近くに床面より浮いた状態で検出された。支脚の抜取り痕と見られるピットが左側の袖石寄りで確認された。袖間の幅は約40cm、袖から奥壁までの距離は約50cmである。遺物は土師器高坏・甕などが出土している。





第7図 I-1区遺物出土状況及び土層実測図 (1/40)

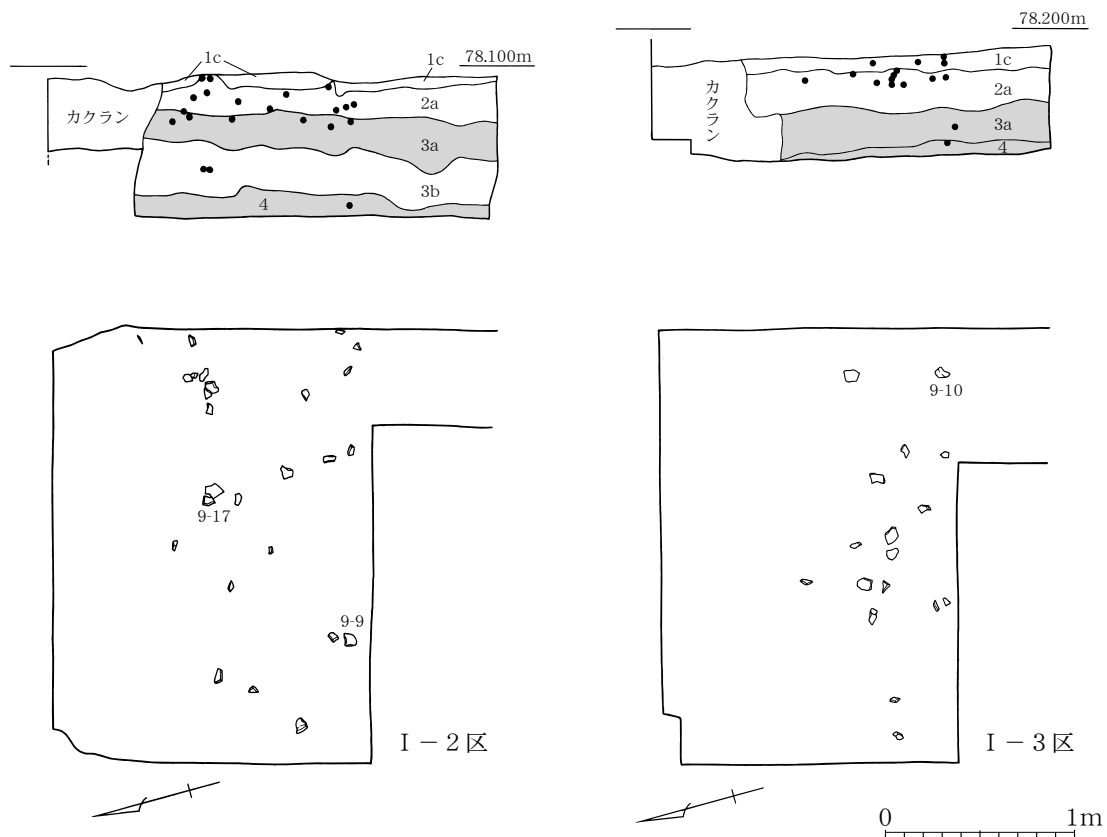
出土遺物 (第6図 図版4 第1表)

1～5は土師器甕である。1は胴部内面にケズリが施される。2は口縁部内面、及び外面はケズリ後ナデが施される。胴部内面は縦方向のケズリが見られる。6は甑の把手である。支柱穴の埋土中より出土した。7は高坏の坏部である。口縁部は外反し、端部を丸く仕上げる。8は須恵器の鉢か。外面は格子目タタキの後にナデ、内面は同心円タタキが施される。9は須恵器坏身である。坏部は浅く、底面は平らに仕上げている。外面は回転ヘラケズリ後、回転ナデ、内面は回転ナデ・不整方向ナデが施される。回転ヘラケズリは底面近くまで見られる。

包含層出土遺物 (第7～9図 第1表 図版4・5)

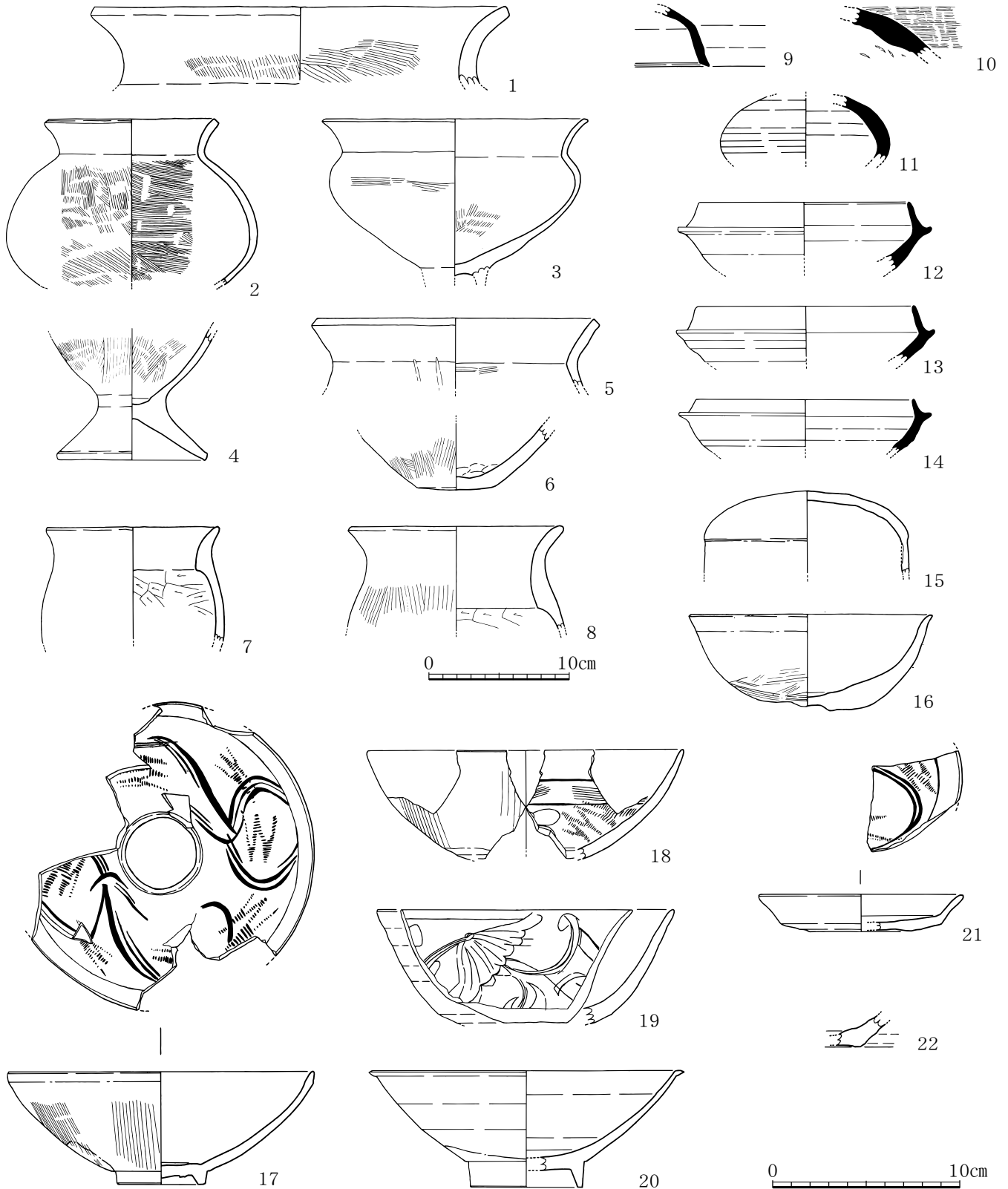
ここではI区の包含層からの出土遺物をみていくが、出土位置・層位等に関わらず、時代順に説明を加えていく。詳細は、第1表を参照されたい。

1、2、5、6は弥生土器甕である。2は胴部が大きく横に張るタイプの小型甕である。3は弥生土器高坏である。4は弥生土器脚付甕である。7、8は土師器甕である。9は須恵器坏蓋である。口縁端部の内面には段を有する。10は須恵器壺か？外面にはカキ目

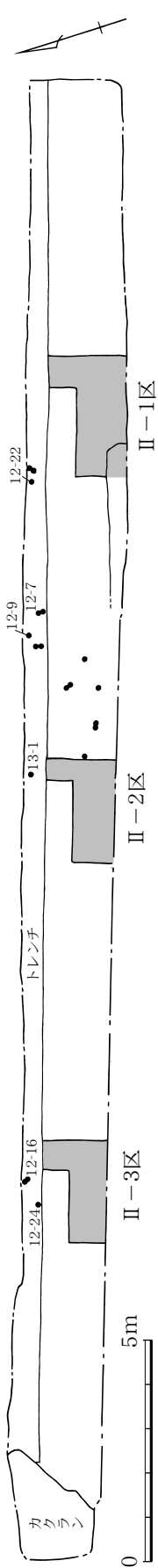


第8図 I-2・3区遺物出土状況及び土層実測図 (1/40)

が施される。11は須恵器甕の体部か？ 12～14は須恵器坏身である。12・13は口縁部が高いのに対し、14は低く、厚く造られている。15は須恵器模倣土師器蓋である。口縁部と天井部の境に段を有し、口縁部は直線的に作られている。16は土師器坏である。底部付近にはハケが見られる。17、18は同安窯系の青磁碗で、ともに外面には細かい櫛目文を施す。また、17は内面に花文・点描文を施し、底部及び高台付近は露胎している。18の内面には花文・点描文の他に櫛目文も見られる。19は龍泉窯系の青磁碗である。内面に

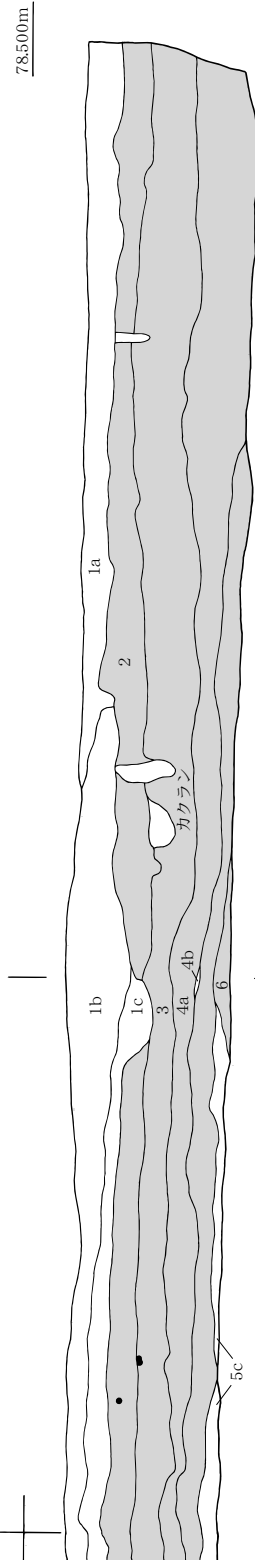


第9図 I区出土遺物実測図 (1~8 : 1/4、9~22 : 1/3)

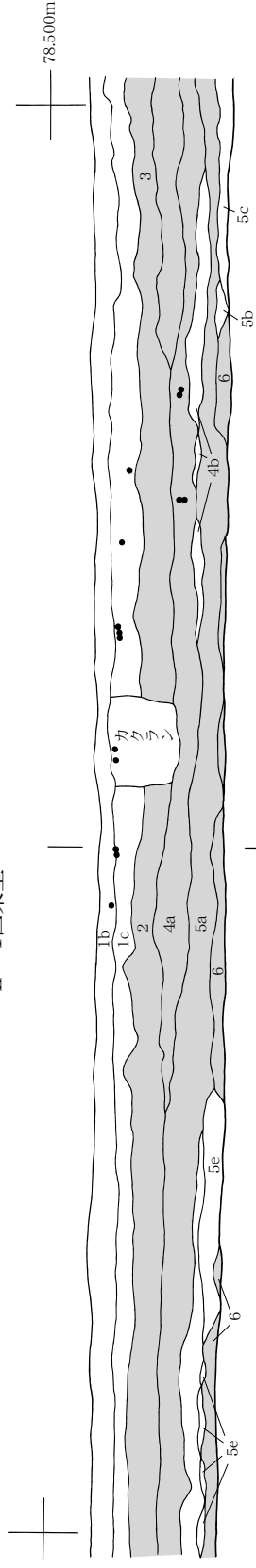


- II区
- 1a 暗茶褐色土層
  - 1b 茶褐色土層
  - 1c 茶褐色砂質土層
  - 2 赤茶褐色砂質土層
  - 3 黄褐色砂質土層
  - 4a 暗黄褐色砂質土層
  - 4b 暗灰褐色砂質土層
  - 4c 茶褐色砂質土層
  - 4d 暗黄茶褐色砂質土層
  - 5a 暗黄茶褐色砂質土層
  - 5b 暗黄茶褐色砂質土層
  - 5c 暗灰褐色砂質土層
  - 5d 暗黄褐色砂質土層
  - 5e 黄褐色砂質土層
  - 6 黄褐色砂質土層
- II区
- 攪乱
  - 水田層
  - 包含層上層・焼土、灰含む
  - 包含層上層
- 包含層下層
- 焼土、灰含む
  - 包含層最下層

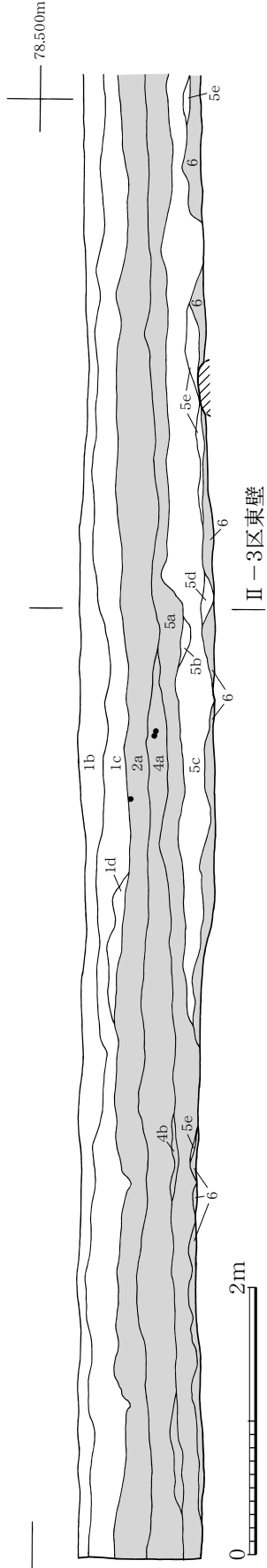
※トレンチはI区と対峙する包含層



II-1区東壁

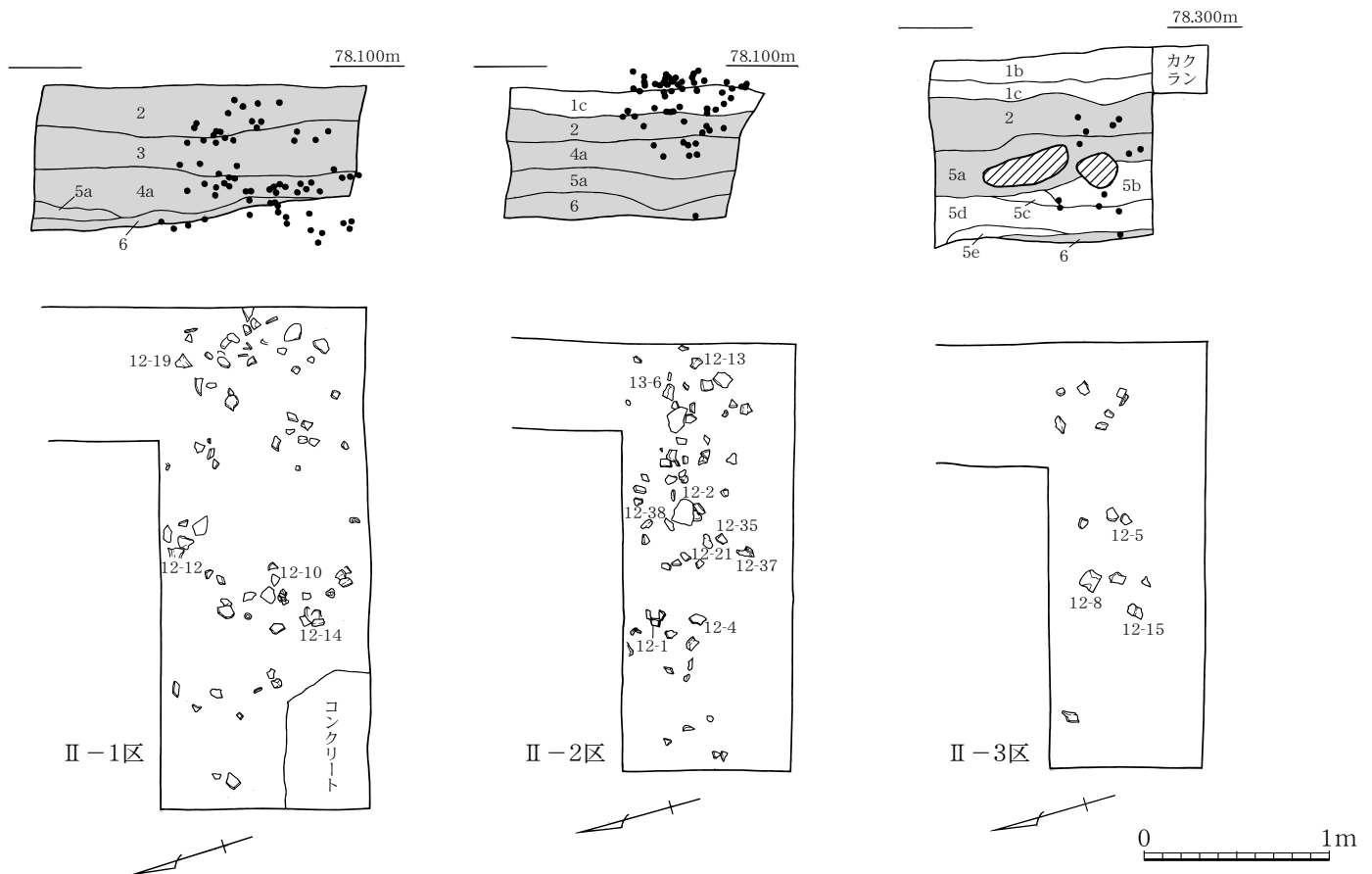


II-2区東壁



II-3区東壁

第10図 II区全体図 (1/150) 及び土層実測図 (1/50)



第11図 II区遺物出土状況及び土層実測図（1/40）

は蓮華文・葉文が施される。底部付近は肉厚である。20は白磁碗である。口縁端部は嘴状に仕上げる。底部・高台付近は露胎している。21は同安窯系青磁皿である。底面を露胎させ、内面見込みには花文・点描文が施される。22は土師質土器坏もしくは小皿である。底面は糸切りである。

## 2. II区（図版1・3・4）

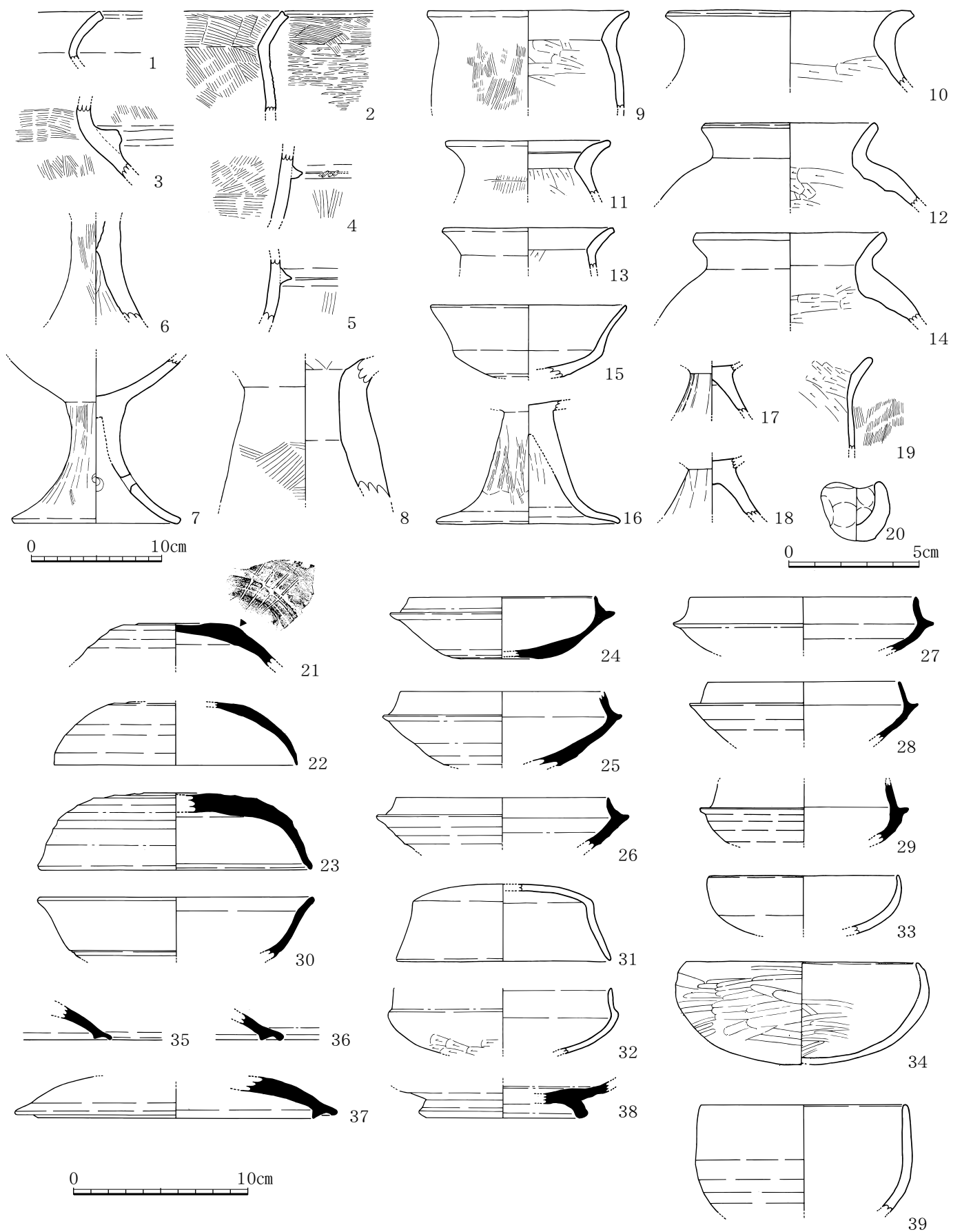
### 基本土層（第10図）

II区の土層は、基本的に1c層以下が包含層となり、3～5a層、6層がそれぞれI区の3a層、4層に対応する。また、6層の下層に礫層がみられ、この層がI区の6層に対応すると考えられる。I区で見られた溝状の落ち込みは確認されず、5a層が中央付近において、東西方向より、若干高くなっていることが観察できた。

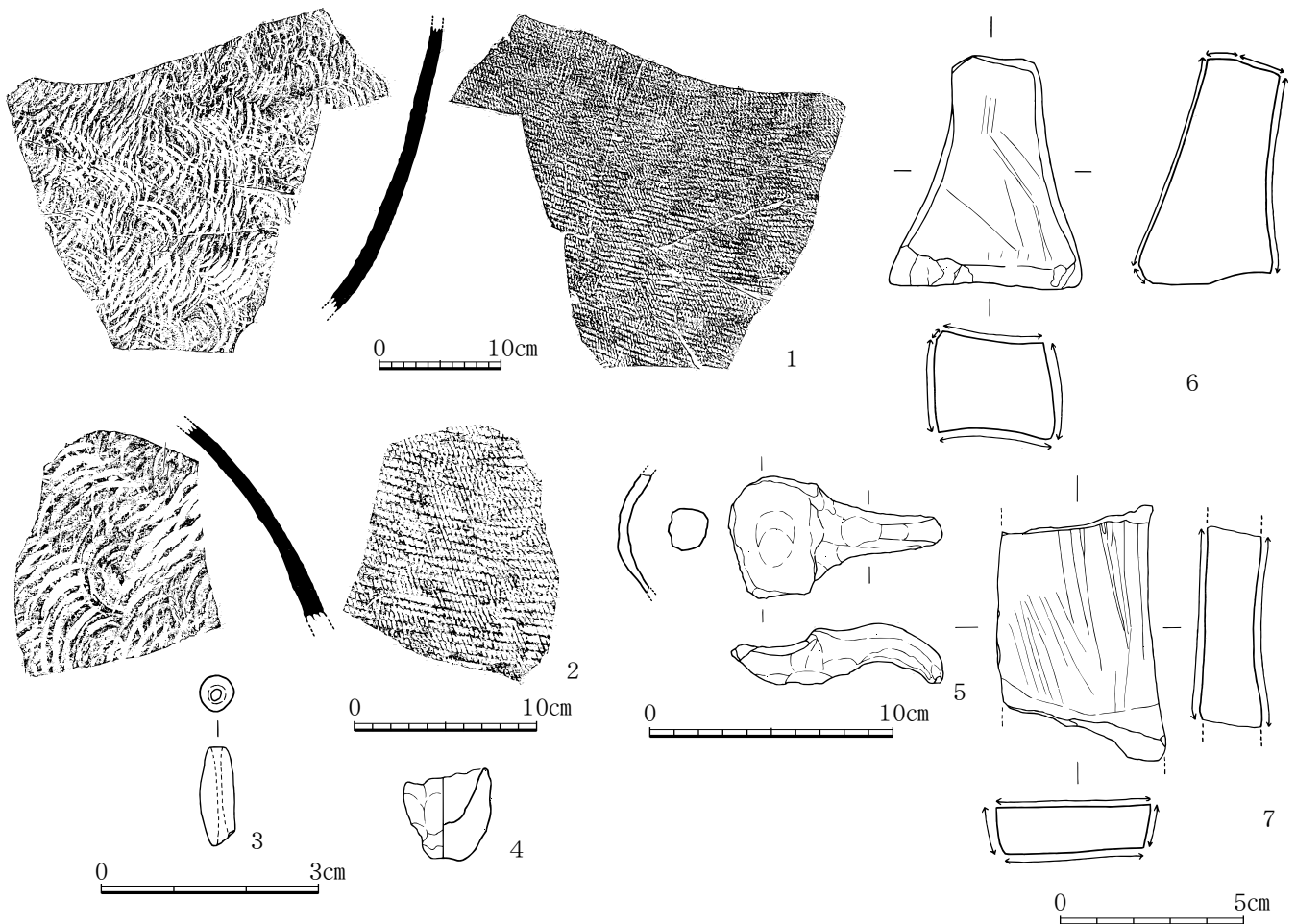
### 包含層出土遺物（第10～13図 第1表 図版5）

II区出土の遺物についてもI区同様に時代順に説明を行っていく。

第12図1・2は弥生土器甕である。3・4は断面台形の突帯、5は断面三角形の突帯を貼付する。6は弥生土器支脚もしくは高坏である。7は弥生土器高坏である。脚部には穿孔が施される。8は弥生土器器台である。外面にはハケが施される。9～14は土師器甕である。11は口縁部内面に沈線が1条施される。15～18は土師器高坏である。15は口縁部が大きく外反する。19は土師器甕である。20は手捏土器である。21～23は須恵器坏蓋である。21の天井部には「+++」形のヘラ記号がみられる。このヘラ記号は小迫墳墓群第4地区5号横穴墓出土の高坏に刻まれたものと類似する<sup>(1)</sup>。23は口縁端部がやや外に開き、内面には段を有する。24～29は須恵器坏身である。24・25は底部付近まで回転ヘラケズリを施す。30は須恵器



第12图 II区出土遗物实测图 (1~19: 1/4, 20: 1/2, 20~39: 1/3)



第13図 II区出土遺物及びその他の遺物実測図（1：1/6、2：1/4、3：1/1、4・6・7：1/2、5：1/3）

甕か。口縁部は大きく外に開く。31は土師器蓋である。天井部と口縁部の境に明瞭な稜を有する。32は須恵器模倣土師器坏身である。底部付近にはケズリが見られる。33・34は土師器坏である。34は内・外面とも、大部分にススが付着する。35～37は須恵器蓋である。38は須恵器高台付壺である。高台は断面方形を呈し、立ち上がり部分より2cmほど内側に付くとみられる。39は青磁碗である。口縁部は直線的に立ち上がる。



写真2 II区トレンチ遺物出土状況

第13図1・2は須恵器甕である。いずれも外面に格子目タタキ、内面に同心円タタキを施す。5は匙形土製品である。色調は淡褐色を呈する。把手部分は湾曲し、一部にススが付着する。残存長8.9cm、高さ2.5cmである。II-2区5a層出土。6・7は砂岩製砥石である。6は長さ6.2cm、厚さ3.6cm、最大幅5.3cm、重さ133.9gである。7は残存長7.0cm、厚さ1.6cm、幅4.2cm、重さ66.5gで、溝状の擦痕が見られ、鉄器類に使用したものと考えられる。

### 3. その他の遺物（第13図）

ここで説明を行う遺物は、出土位置が不明のものである。3は土錘である。色調は暗赤褐色を呈し、長さ2.7cm、最大幅0.9cm、孔径0.3cm、重さ1.8gである。4は手捏土器である。

註(1) 小柳和宏編『小迫墳墓群』九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(3) 大分県教育委員会 1995

## IV まとめ

今回の調査では、竪穴住居1軒と包含層が確認できたが、最後にまとめとして、これらの形成時期や周辺の状況について、考えてみることにしたい。

まず、1号竪穴住居の時期についてみていく。第6図9の坏身は、坏部が浅く、底面が回転ヘラ切り未調整である点から、陶邑編年TK209と考えられる。また、2の土師器小型壺は口縁部の傾きや胴部最大径、7の土師器高坏は坏部口縁の傾きから、重藤氏の編年で9期にあたり、須恵器坏身と同時期とみられる。1や3の土師器甕は胴部や口縁部の形態に若干古い要素が見られるものの、この住居の年代は7世紀初頭～前半の中に収まるとみられるが、後述する包含層の時期と合わせて、のちほど触れることにする。

包含層出土の遺物については、弥生時代後期後半から見られ、I区4層より出土した弥生土器高坏（第9図3）、II区6層より出土した弥生土器甕（第12図2）などがこの時期に当たる。一方、新しい時期の遺物はI区2a層より出土した第9図17～21は同安窯系青磁碗（I-1a類）・皿（I-2b類）、龍泉窯系青磁碗（I-2b類）、白磁碗（V-4a類）が出土していることから、12世紀中頃～後半の年代が与えられる（宮崎編2000）。さらに、第9図22の土師質土器小皿（坏）も底面が糸切りであることから12世紀以降とみていだろう。また、出土遺物のうち、最も多くみられるのは須恵器蓋坏が陶邑編年MT85～TK43（第9図12～14・第12図22、24～29、31～33）、土師器甕・高坏・椀などが重藤編年の9期のものである（第9図7・8・16、第12図9～18）。

次に出土遺物の時期と出土層位の関係をみると、I区2a層が12世紀中頃～後半、3層以下が弥生時代後期後半と6世紀中頃～後半、これに対応して、II区2層以下がI区3層以下と同様の時期となる。これらの層中には古い時期の遺物も含まれているが、周辺地からの流れ込みが何回も起こり、その都度、古い時期の遺物が堆積したものと推定できる。以上のことから今回確認された包含層の形成時期は、大きくは前述の2つの時期に分けられるであろう。これらの堆積時期の間にも7世紀中頃以降の遺物が含まれているII区1c層のように、小規模な堆積は起きているとみられる。また、こうした状況から1号竪穴住居は包含層の形成直後に作られるが、7世紀中頃以降は再び堆積がみられることから、この時期に集落が形成されたとしても、この場所での存続期間はそれほど長くなかったと思われる。

最後に、今回の調査区と周辺の地形について考えてみたい。竪穴住居が確認されたI区4層の上面レベルは、I区東側において、約77.4mであるのに対し、住居がある西側では約77.9mと約50cm高くなっている。また、I区4層に対応するII区6層の上面レベルは約77.3mである。竪穴住居の検出面から床面までの深さが浅いことから上面は削平を受けていることを考えても、調査区内において、地形は南東から北西に向かって徐々に高くなっていることが窺える。また、I区の土層観察から、中央付近で谷状の浅い落ち込みがあることがわかり、狭い範囲の中でも細かい地形の起伏があったと考えられる。

一方、今回の調査の後、調査区の北約120m、西約110mの2地点で試掘調査が行われたが（第1図）、遺構等は確認されずに、最下層では砂層が検出された。この砂層のレベルは北側の調査区で約77.1m、西側の調査区で約77.0mであり、住居が確認された部分より約0.8～0.9m低くなっている。さらに1次調査区での古墳時代が上限とみられる溝の掘り込み面のレベルは約76.9mである。こうしたことから、郷四郎遺跡全体で見た場合、東から西へ向かって、徐々に高くなり、住居が確認された付近で最高点に達し、また低くなっていく地形であったと考えられる。こうした状況から、今回確認された包含層の遺物は遺跡東側において、長期間にわたり存在した集落からの流れ込みと想定される。

（参考文献）田辺昭三『陶邑古窯址群』研究論集10 平安学園考古クラブ 1966／重藤輝行「仁右衛門畑遺跡を中心とした浮羽群の古墳時代土師器編年」吉田東明編『仁右衛門畑遺跡』I 浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告書第12集 福岡県教育委員会 2000／宮崎亮一編『大宰府条坊』XV—陶磁器分類編—大宰府の文化財第49集 大宰府市教育委員会 2000ほか

第1表 出土土器観察表

挿図番号	写真図版番号	調査区	遺構又は層序	種別	器種	法 量：( )は復元径・残存高				調 整		胎 土					焼成	色 調		備 考
						口径	胴部径	底径	器高	外面	外面	斜角 長石	石英 石	赤色 色粒	黒色 色粒	砂粒		外面	内面	
第6図1	4	I	1住	土師器	甕	-	(26.8)	-	(29.1)	ハケ?・ナデ	ケズリ・ナデ	○	○	○	○	○	良好	暗茶褐色	暗褐色	頸部径(19.5cm)
第6図2	4	I	1住	土師器	甕	(13.0)	(10.4)	-	7.2	ケズリ・ナデ	ケズリ・ナデ	○	○	○	○	○	良好	暗赤褐色	暗茶褐色	スス付着
第6図3	-	I	1住	土師器	甕	-	-	-	(7.7)	ナデ	ケズリ・ナデ	○	○	○	○	○	良好	暗赤褐色	淡赤褐色	外面スス付着
第6図4	-	I	1住	土師器	甕	(22.6)	-	-	(5.5)	ナデ	ケズリ・ナデ	○	○	○	○	○	良好	暗褐色	茶褐色	頸部径(19.6cm)
第6図5	-	I	1住	土師器	甕	-	-	-	-	ケズリ	-	○	○	○	○	○	良好	淡赤褐色	-	把手のみ
第6図6	4	I	1住	土師器	甕	-	-	(6.0)	(11.4)	ケズリ・ナデ	ケズリ・ナデ	○	○	○	○	○	良好	淡赤褐色	暗茶褐色	
第6図7	4	I	1住	土師器	高坏	(13.7)	-	-	(5.0)	ハケ・ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	やや不良	赤褐色	赤褐色	
第6図8	-	I	1住	須恵器	鉢?	-	-	-	(8.1)	格子目タタキ・ナデ	同心円タタキ・ナデ	○	○	○	○	○	良好	灰褐色	灰褐色	
第6図9	4	I	1住	須恵器	坏身	10.4	-	7.7	2.6	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ・不整方向ナデ	○	○	○	○	○	良好	明灰褐色	明灰褐色	
第9図1	-	I-1	一括	弥生	甕	(29.2)	-	-	(6.6)	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ	○	○	○	○	○	良好	淡赤褐色	暗赤褐色	頸部径(25.2cm)
第9図2	-	I	(2a層)	弥生	甕	(10.8)	(17.9)	-	(11.9)	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ	○	○	○	○	○	良好	淡赤褐色	黄褐色	頸部径(10.3cm)
第9図3	4	I-1	4層	弥生	高坏	(19.0)	-	-	(11.2)	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ	○	○	○	○	○	良好	淡赤褐色	赤褐色	一部・未残存・スス付着 頸部径(16.8cm)
第9図4	-	I	(2a層)	弥生	甕	-	-	(10.4)	(9.4)	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ	○	○	○	○	○	良好	赤褐色	赤褐色	頸部径4.8cm
第9図5	-	I	4層	弥生	甕	(19.6)	-	-	(4.9)	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	○	○	○	○	○	良好	淡黒褐色	淡褐色	頸部径(17.4cm)
第9図6	-	I-1	4層	弥生	甕	-	-	5.6	(4.6)	ハケ・ナデ	指押さえ・ナデ	○	○	○	○	○	良好	淡赤褐色	暗黄灰褐色	
第9図7	-	I	4層	土師器	甕	(12.2)	(13.3)	-	(8.3)	ハケ?・ナデ	ケズリ・ナデ	○	○	○	○	○	良好	暗赤褐色	暗褐色	頸部径(11.3cm)
第9図8	-	I	3a層	土師器	甕	(14.8)	-	-	(7.4)	ハケ・ナデ	ケズリ・ナデ	○	○	○	○	○	良好	暗茶褐色	黒褐色	頸部径(12.7cm)
第9図9	-	I-1	3a層	須恵器	环蓋	-	-	-	(3.2)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	○	○	○	○	○	良好	灰褐色	灰褐色	
第9図10	-	I-3	(2a層)	須恵器	壺?	-	-	-	(2.6)	カキ目	ナデ	○	○	○	○	○	良好	灰白色	灰白色	
第9図11	-	I	2a層	須恵器	甕	-	-	(9.1)	(3.3)	回転ヘラケズリ	回転ナデ	○	○	○	○	○	良好	灰赤褐色	灰赤褐色	
第9図12	-	I-1	3a層	須恵器	坏身	(11.2)	-	-	(3.6)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	○	○	○	○	○	良好	明灰褐色	明灰褐色	
第9図13	-	I	(2a層)	須恵器	坏身	(11.6)	-	-	(3.0)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	○	○	○	○	○	良好	淡灰褐色	灰白色	蓋を被せて焼成か
第9図14	-	I	3a層	須恵器	坏身	(11.6)	-	-	(2.9)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	○	○	○	○	○	良好	黄灰褐色	黄灰褐色	
第9図15	-	I	3a層	土師器	蓋	-	-	-	(4.5)	回転ヘラケズリ・ナデ	回転ナデ・ナデ	○	○	○	○	○	やや不良	淡赤褐色	淡赤褐色	
第9図16	4	I	3a層	土師器	樽	13.1	-	-	5.2	ハケ・ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	良好	淡褐色	淡褐色	
第9図17	4	I-2	(2a層)	青磁	碗	(16.4)	-	4.8	6.1	櫛目文	花文・点描文	-	-	-	-	-	良好	淡緑色	淡緑色	同安窯系、一部露胎
第9図18	-	I	トレンチ	青磁	碗	(17.1)	-	-	(5.9)	櫛目文	櫛目文・点描文	-	-	-	-	-	良好	淡緑色	淡緑色	同安窯系、一部露胎
第9図19	5	I	2a層	青磁	碗	(16.0)	-	-	(6.1)	-	蓮華文・葉文	-	-	-	-	-	良好	濃緑色	濃緑色	龍泉窯系
第9図20	5	I	(2a層)	白磁	碗	(17.0)	-	(6.0)	(6.3)	-	-	-	-	-	-	-	良好	乳白色	乳白色	一部露胎
第9図21	5	I	(2a層)	青磁	皿	(11.0)	-	(5.4)	2.0	-	花文・点描文	-	-	-	-	-	良好	淡緑色	淡緑色	同安窯系
第9図22	-	I-1	(2a層)	土師質土器	坏	-	-	-	(1.7)	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	良好	暗褐色	暗褐色	底面糸切り
第12図1	-	II-2	(4a層)	弥生	甕	-	-	-	(3.7)	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	良好	黄白色	黄白色	
第12図2	-	II	(5a層)	弥生	甕	-	-	-	(7.8)	タタキ・ハケ	ハケ・ナデ	○	○	○	○	○	良好	暗茶褐色	褐色	外面スス付着
第12図3	-	II	3層	弥生	壺	-	-	-	(5.8)	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ	○	○	○	○	○	やや不良	淡黄茶褐色	淡黄茶褐色	
第12図4	-	II-2	6層	弥生	壺	-	-	-	(5.2)	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ	○	○	○	○	○	良好	淡黒褐色	褐色	突部に刻み目
第12図5	-	II-3	5a層	弥生	壺	-	-	-	(5.0)	ハケ・ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	良好	暗茶褐色	暗褐色	
第12図6	-	II	(6層)	弥生	支脚	-	-	-	(7.7)	ハケ・ナデ	ケズリ	○	○	○	○	○	良好	明黄褐色	明黄褐色	
第12図7	5	II	4a層	弥生	高坏	-	-	(13.0)	(12.7)	ケズリ・ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	良好	赤茶褐色	赤茶褐色	
第12図8	5	II-3	2層	弥生	器台	-	-	-	(11.0)	ハケ・ナデ	指押さえ・ナデ	○	○	○	○	○	良好	暗茶褐色	暗茶褐色	頸部径(9.4cm)
第12図9	-	II	4a層	土師器	甕	(15.2)	(14.7)	-	(7.6)	ハケ・ナデ	ケズリ・ナデ	○	○	○	○	○	良好	暗赤褐色	暗赤褐色	
第12図10	-	II-1	6層	土師器	甕	(18.6)	-	-	(5.7)	ナデ	ナデ・ケズリ	○	○	○	○	○	良好	黒褐色	暗赤褐色	
第12図11	-	II-3	5d層	土師器	甕	(12.0)	-	-	(4.2)	ハケ・ナデ	ケズリ・ナデ	○	○	○	○	○	良好	暗褐色	暗赤褐色	外面スス付着・頸部径(9.6cm)
第12図12	-	II-1	6層	土師器	甕	(13.0)	-	-	(6.5)	ナデ	ケズリ・ナデ	○	○	○	○	○	良好	暗赤褐色	暗赤褐色	頸部径(10.8cm)
第12図13	-	II-2	4a層	土師器	甕	(13.0)	-	-	(3.2)	ナデ	ケズリ・ナデ	○	○	○	○	○	良好	淡黄茶褐色	淡黄茶褐色	頸部径(10.2cm)
第12図14	5	II-1	6層	土師器	甕	(14.2)	-	-	(7.0)	ナデ	ケズリ・ナデ	○	○	○	○	○	良好	暗茶褐色	暗茶褐色	頸部以下、大部分にスス付着 頸部径(12.6cm)
第12図15	-	II-3	(4a層)	土師器	高坏	(15.0)	-	-	(5.6)	ナデ?	ナデ?	○	○	○	○	○	やや不良	暗赤褐色	暗赤褐色	
第12図16	5	II	4a層	土師器	高坏	-	-	(14.1)	(9.5)	ケズリ・ナデ	ケズリ・ナデ	○	○	○	○	○	良好	淡赤褐色	淡赤褐色	
第12図17	-	II	トレンチ	土師器	高坏	-	-	-	(3.7)	ケズリ	ナデ	○	○	○	○	○	不良	橙色	褐色	頸部径3.2cm
第12図18	-	II	トレンチ	土師器	高坏	-	-	-	(4.4)	ケズリ	ナデ	○	○	○	○	○	不良	暗褐色	暗褐色	頸部径3.6cm
第12図19	-	II-1	4a層	土師器	甕	-	-	-	(7.2)	ハケ・ナデ	ケズリ・ナデ	○	○	○	○	○	良好	淡赤褐色	暗茶褐色	
第12図20	5	II-3	一括	手捏土器	蓋	2.1	-	-	2.3	指押さえ	指押さえ	○	○	○	○	○	良好	赤褐色	赤褐色	
第12図21	5	II-2	2層	須恵器	环蓋	-	-	-	(3.2)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	○	○	○	○	○	良好	暗灰褐色	暗灰褐色	ヘラ記号、天井径(6.0cm)
第12図22	-	II	2層	須恵器	环蓋	(14.1)	-	-	(3.7)	回転ヘラケズリ	回転ナデ	○	○	○	○	○	良好	灰黒色	灰褐色	外面自然釉付着、内面に気泡
第12図23	5	II	(3層)	須恵器	环蓋	(15.8)	-	-	4.5	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	○	○	○	○	○	良好	灰褐色	灰褐色	
第12図24	5	II	2層	須恵器	坏身	(10.8)	-	(6.6)	3.6	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	○	○	○	○	○	良好	灰白色	灰白色	
第12図25	-	II	(5a層)	須恵器	坏身	(10.8)	-	-	(4.3)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ・不整方向ナデ	○	○	○	○	○	やや不良	灰白色	灰白色	
第12図26	-	II	(2層)	須恵器	坏身	(12.4)	-	-	(3.1)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	○	○	○	○	○	良好	灰褐色	灰褐色	体部灰黒色、裏を被せて焼成か
第12図27	-	II	トレンチ	須恵器	坏身	(13.0)	-	-	(3.2)	回転ナデ	回転ナデ	○	○	○	○	○	良好	暗灰褐色	暗灰褐色	
第12図28	-	II	トレンチ	須恵器	坏身	(13.2)	-	-	(3.5)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	○	○	○	○	○	良好	灰白色	灰白色	
第12図29	-	II	一括	須恵器	坏身	-	-	-	(4.2)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	○	○	○	○	○	良好	灰褐色	灰褐色	
第12図30	-	II	一括	須恵器	甕	(15.9)	-	-	(3.6)	回転ナデ	回転ナデ	○	○	○	○	○	良好	灰黒色	灰白色	内面に自然釉
第12図31	5	II	(5a層)	土師器	蓋	(12.2)	-	-	4.5	ナデ	ナデ	○	○	○	○	○	良好	暗赤褐色	暗赤褐色	天井径(10.4cm)
第12図32	5	II	(5a層)	土師器	坏	(12.6)	-	-	(3.8)	ナデ・ケズリ	ナデ	○	○	○	○	○	良好	淡赤褐色	淡赤褐色	一部スス付着
第12図33	-	II	(5a層)	土師器	樽	(11.0)	-	-	(3.4)	ナデ	ヘラケズリ・ナデ	○	○	○	○	○	良好	赤褐色	赤褐色	
第12図34	-	II-1	(6層)	土師器	樽	(13.6)	-	-	6.0	ミガキ・ナデ	ミガキ・ナデ	○	○	○	○	○	良好	暗茶褐色	暗茶褐色	
第12図35	-	II-2	1c層	須恵器	蓋	-	-	-	(2.0)	回転ナデ	回転ナデ	○	○	○	○	○	良好	灰黒色	灰黒色	
第12図36	-	II	一括	須恵器	蓋	-	-	-	(1.5)	回転ヘラケズリ・ナデ	回転ナデ	○	○	○	○	○	良好	灰褐色	灰褐色	
第12図37	5	II-2	1c層	須恵器	蓋	(16.0)	-	-	(2.4)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	○	○	○	○	○	良好	赤茶褐色	赤茶褐色	
第12図38	-	II-2	1c層	須恵器	坏	-	-	(9.0)	(2.1)	回転ヘラケズリ・回転ナデ	回転ナデ	○	○	○	○	○	良好	灰褐色	灰褐色	
第12図39	-	II	トレンチ	青磁	碗	(12.0)	-	-	(6.3)	-	-	-	-	-	-	-	良好	淡緑色	淡緑色	
第13図1	-	II	トレンチ	須恵器	甕	-	-	-	(23.8)	格子目タタキ	同心円タタキ	○	○	○	○	○	良好	灰白色	灰白色	
第13図2	-	II-2	1c層	須恵器	甕	-	-	-	(10.7)	格子目タタキ	同心円タタキ	○	○	○	○	○	良好	黄灰褐色	黄灰褐色	
第13図3	-	-	一括	手捏土器	蓋	2.2	-	0.9	2.6	指押さえ	指押さえ	○	○	○	○	○	不良	赤褐色	赤褐色	

※ ( ) 付きの層序はレベルから推定





調査区遠景（北から）



I区全景（東から）



II区全景（東から）



1号竖穴住居（南から）



1号竖穴住居遺物出土状況



1号竖穴住居遺物出土状況



1号竖穴住居カマド発掘状況



I - 1区遺物出土状況



I - 1区土層堆積状況



I - 2区遺物出土状況



I - 2区土層堆積状況

写真図版 3



I - 3 区遺物出土状況



I - 3 区土層堆積状況



II - 1 区遺物出土状況



II - 1 区遺物出土状況



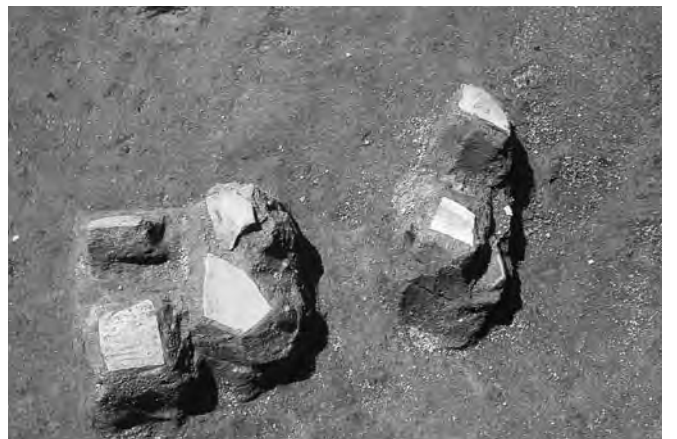
II - 1 区遺物出土状況



II - 1 区土層堆積状況



II - 2 区遺物出土状況



II - 2 区遺物出土状況





II - 2 区土層堆積状況



II - 3 区遺物出土状況



II - 3 区土層堆積状況



II 区トレンチ遺物出土状況



6-1



6-2



6-6



6-7



6-9



9-17 (内面)



9-3



9-16



9-17 (側面)

写真图版 5



9-19



9-20



9-21



12-7



12-8



12-14



12-16



12-20



12-21



12-23



12-24



12-31



12-32



12-37



13-5



13-7

# 報告書抄録

ふりがな	ごうしろういせき
書名	郷四郎遺跡Ⅱ
副書名	
巻次	
シリーズ名	日田市埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	82
編著者名	若杉竜太
編集機関	日田市教育庁文化財保護課
所在地	〒877-0077 日田市南友田町516-1
発行機関	日田市教育委員会
所在地	〒877-8601 日田市田島2-6-1
発行年月日	2007年9月30日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
郷四郎遺跡	大分県日田市 大字十二町字堀 336	44204-6	651238	33°19'22"	130°59'9"	20060607 ～ 20060728	164 m <sup>2</sup>	店舗建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
郷四郎遺跡	集落 包蔵地	古墳 弥生 ～ 中世	竪穴住居 包含層	土師器・須恵器 弥生土器・石器 土師器・須恵器 青磁・白磁	

## 郷四郎遺跡Ⅱ

日田市埋蔵文化財調査報告書第82集  
2007年9月30日

編集 日田市教育庁文化財保護課  
〒877-0077 大分県日田市南友田町516-1

発行 日田市教育委員会  
〒877-8601 大分県日田市田島2-6-1

印刷 尾花印刷有限公司  
〒877-0026 大分県日田市田島本町8-8



日田市